

広報

ただみ

7
2013 月号
No. 518
平成25年7月10日



今月の表紙

7月4日に朝日保育所で七夕飾りが行われました。
みんなの願い事が叶いますように！

只見町防災訓練 2~5
交通死亡事故ゼロ1000目を達成 他 6~9
町の話 10~11

災害に備える

只見町防災訓練



平成23年7月29日の新潟・福島豪雨から早くも2年が経とうとしています。

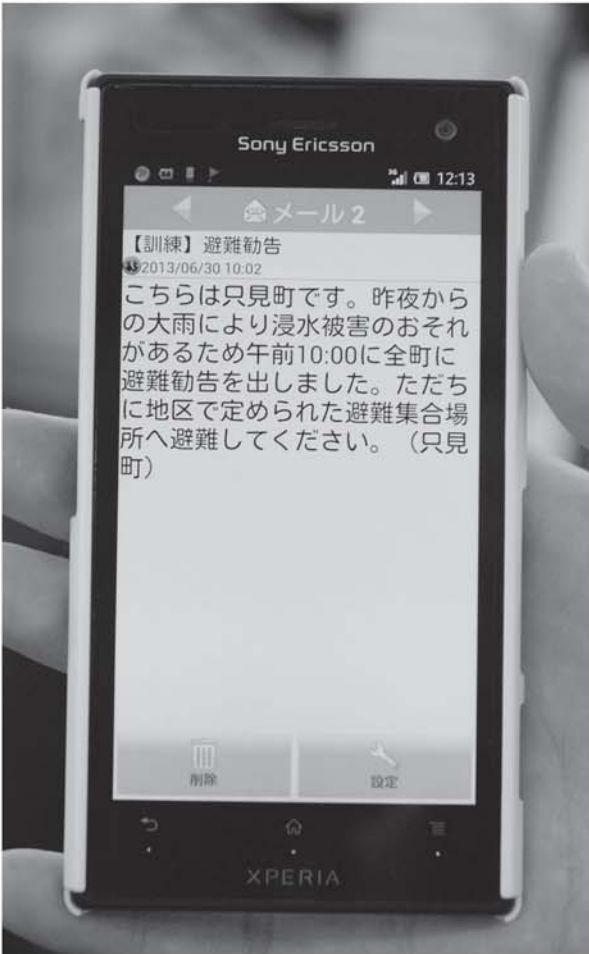
道路や農地などの復旧工事も進みあの大災害から只見町は着実に復興へと向かっています。

あの豪雨は自然災害の恐ろしさを私たちに身を持って体験させたと思いますが、あの体験から私たちは何を学んだのでしょうか？

私たちは自然災害をくい止めることは出来ませんが、被害を出来るだけ小さくするため対策を行なう事は出来るのではないのでしょうか？

災害はいつ起こるか分かりません。

日頃から防災意識を高め、災害に対する準備を整えておく事が重要です。



今回の防災訓練は避難準備情報や避難勧告の周知方法として、広報無線を利用するほか緊急速報メールも利用しました。

写真⑤ 緊急速報メール発信作業

写真⑥ 実際に届いたメール内容



防災訓練はなぜ必要なのか？

災害が起こった時は、いち早く適切な行動を行なう事が必要とされていますが、災害に対する知識だけではいざという時に行動に移す事が出来ません。

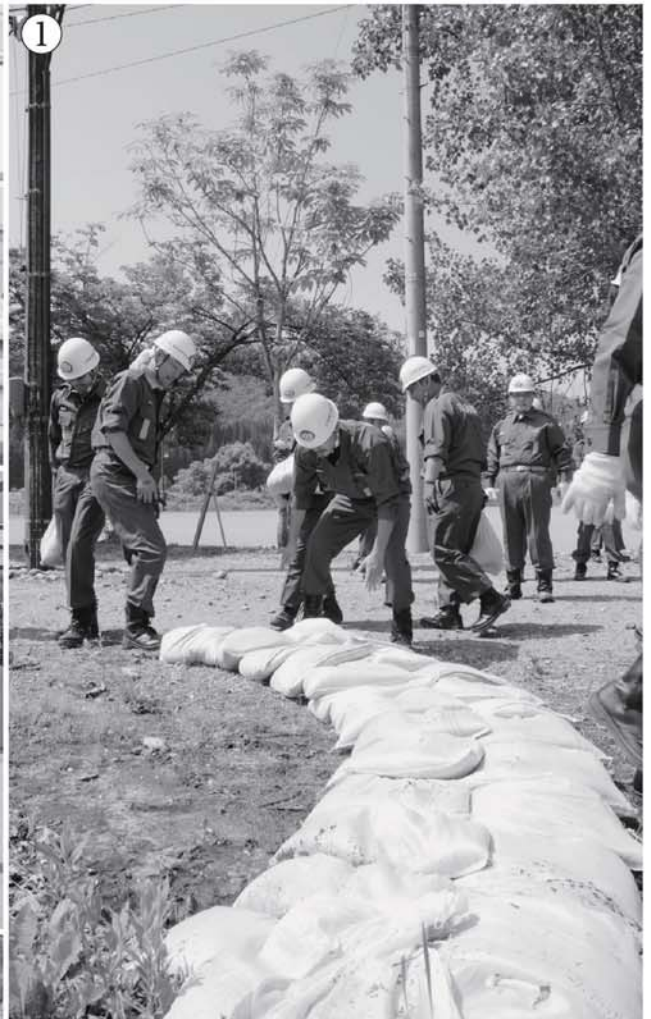
訓練として実際に行動することで自分の地域のこと、住んでいる人達の事を知り災害時に自分は何をするべきなのか、「いざという時どうするのか」を知る事が出来ます。

6月30日に行われた防災訓練は、平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨を踏まえて町、消防団、住民、関係機関それぞれが災害時に迅速な対応をする事が出来るようになる事を目的として実施され、約千四百名の方が訓練に参加されました。

訓練では、豪雨による河川等の増水により住居等への被害が発生する危険性がある事を想定し、水防本部における初動訓練、ダム放流時における通知・通報訓練、消防団による土のう積みなどの水防訓練、各集落と町との伝達訓練や避難訓練、三地区婦人会や赤十字奉仕団による炊き出し訓練が行われました。

また、警察署や消防署も防災訓練に参加された事で、より実践に近い防災訓練となりました。

- ①消防団による土のう積み訓練
- ②災害対策本部の様子
- ③婦人会による炊き出し訓練
- ④只見小学校へ避難する住民
- ⑤消防団による河川巡視訓練





⑥水防本部会議の様子

⑦安否確認等実施の様子

⑧只見地区センターで炊き出しの配布

⑨避難所への炊き出し運搬

⑩赤十字による炊き出し訓練

⑪けが人搬送訓練

只見町では今回初めて全町民を対象にした防災訓練を実施しました。

実際に訓練を行なった事で反省点や問題点など色々な事が分かったと思います。これら問題点は実際に動かなければ分からなかった事ばかりだと思います。

町や、各集落においても、「こうすれば良かった」「こういう時はどうしたら良かったのか？」など色々な意見が出たと思います。

また今回は日中の訓練でしたが、夜間や冬期間など様々な条件の中での対応も検討しなければなりません。災害の規模が大きくなれば大きくなるほど「自助（自らの安全は、自らが守る）・共助（助け合い自分達の町を守る）」が重要になるといわれています。

今回の訓練を終え家庭や地域での防災対策も考えてみて下さい。

町民一人ひとりが交通ルールを守り

交通死亡事故ゼロ1000日を達成

6月16日の午前0時で交通死亡事故ゼロ千日の記録を達成した事により、18日に只見町役場で表彰式が行われ、南会津地方交通対策協議会の鈴木一夫南会津地方振興局次長から表彰状が手渡されました。

町民の皆さんにおかれましてはこの記録を重ねていけるように交通ルールを守り安全・安心な町になるよう一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

地域の見守り強化

コープあづむと高齢者見守りで連携

町と生活協同組合コープ会津は「地域見守りネットワーク」に関する協力協定を6月10日に結びました。このことにより、コープあづむの配達員が宅配などで高齢者宅を訪問した際、郵便物がたまっていないなどの異変を発生した場合に町に連絡をして頂く事となり異変の早期発見や安否確認ができる体制が強化されました。



▲吉川専務(左)と協定を結ぶ矢沢課長



▲鈴木次長(右)から表彰状を受けた目黒町長

自民党青年局 TEAM11

JR只見線被害状況を視察

自民党青年局が11日に豪雨災害で被災したJR只見線などを視察するため只見町に訪れ、寄岩地区にある只見線第八橋梁や八木沢地区などを視察し現状を確認しました。

その後、季の郷湯ら里で只見川流域住民との意見交換会が開かれ、住民からは「観光客を呼び戻すには只見線は必要不可欠」「電車が走る事で地域の安心感が生まれる」など只見線早期全線復旧の必要性が語られました。

小泉進次郎局長は「只見線復旧はこの地域の未来を決める事にもなる。どうしたら復旧出来るか皆で考えていきましよう」と話され国に要望を届ける事を約束されました。また、「視察に来て本当に美しい所だと思っただ。再開通したらぜひ一番に只見線に乗りた

い」とも話されました。



▲小泉議員に災害時の状況を説明する目黒町長

只見の魅力を再発見

只見小学校でミニ講演会

6月7日に只見小学校の児童を対象にミニ講演会が行われました。

この講演会は普段生活している中では気づかない只見町の魅力に気づいてもらうため会津地方振興局が主催となり開催されました。

講演者は番所茶屋「叶屋」を経営されている伊豆 真一さん。たまたま登山で訪れた只見町を気に入り移住を決めたという方で、只見の魅力に気づいた方のひとりです。

伊豆さんは「只見は水と空気が、自然環境が素晴らしく景色の美しさで有名な只見線もあり誇りに思っています。また、「夢」や「志」を大切にしている自然を愛する気持ちを持ち続けて欲しい」と話されました。

児童達は講演を熱心に聞き只見の魅力に気づくと共に「夢」を持つ事の大切さを学びました。



▲自分の経験から只見町の素晴らしさを語る伊豆さん

自分達の地域を知る

小林地区「元気な集落再生ワークショップ」

明和自治振興会が主体となり6月9日と16日の2回に分けて小林地区の集落再生ワークショップが実施されました。このワークショップは、物や数字だけではなく自分が住んでいる地域の今を理解するため実際に皆で見て考える事で住民が主体となったこれからの集落の姿を描くというものです。

専門家の指導のもと、9日は5グループに分かれ集落の宝や課題について整理を行い16日は実際に小林集落を歩いて見過ごしている課題や魅力が無いかの確認が行われました。

参加者は真剣に取り組みながらも楽しそうにワークショップを行いました。

この元気な集落再生ワークショップは小林集落を皮切りに明和地区全集落で実施される予定となっています。



▲集落内を歩き自分の目で現状を確認



▲魅力や課題を皆で書き出しました

平成25年度「自然首都・只見」

学術調査研究助成金事業の助成研究が決定！

昨年開始した「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業を今年度も実施します。

この事業は、只見町の生物多様性の保全・再生・活用、また、持続可能な生態系サービスの活用や自然再生に関する調査研究を行う研究者に助成を行い、それらの価値を科学的に明らかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上をめざすものです。年度内には研究成果発表会を開催し、町民の皆様には研究成果をお知らせするとともに、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用も期待されます。

また、只見町は人と自然との共生を実現する地域であるユネスコエコパークの登録を目指しています。ユネスコエコパークは①自然環境・生物多様性の保護・保全、②調査研究・人材育成、③地域の資源を持続可能な形で活用した地域社会の発展（産業振興）の3つを目標に掲げています。今回の助成金事業は、この目標のうちの調査研究・人材育成に位置付けたユネスコエコパーク関連事業となっています。

公募と審査の結果、下記7件の研究者・研究テーマについて助成を行うことが決まりました。

助成研究者代表	所属研究機関	調査研究テーマ
宮下 彩奈	東京大学 日光植物園	ブナ林の維持・再生に関わるブナ個体の生育条件の研究
大曾 根陽子	首都大学東京	只見地方におけるヒメサユリ個体群の維持機構の解明
新国 可奈子	新潟大学大学院	山地河畔林における大規模攪乱（平成23年7月新潟・福島豪雨）後の植生更新
斉藤 真人	横浜国立大学 大学院	多雪山地溪流沿いに成立する森林群落の成立と地形の対応
三田村 敏正	冬虫夏草の会、 福島虫の会、など	只見町のブナ林を中心とした森林における冬虫夏草と生物多様性に関する研究
加藤 英寿	首都大学東京	「奥会津要素」の由来と実態の解明 —主にツクバネウツギ属を対象として—
首藤 光太郎	福島大学大学院	福島県只見町のいくつかの湖沼、水路、水田の水生植物相

なお、この事業は只見町ブナセンターとの連携の下に行います。町内で只見町ブナセンターの腕章・ロゴを付けた研究者・車両を見かけましたら、調査中ですので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（お問い合わせ 只見町役場総務企画課企画班 82-5220）

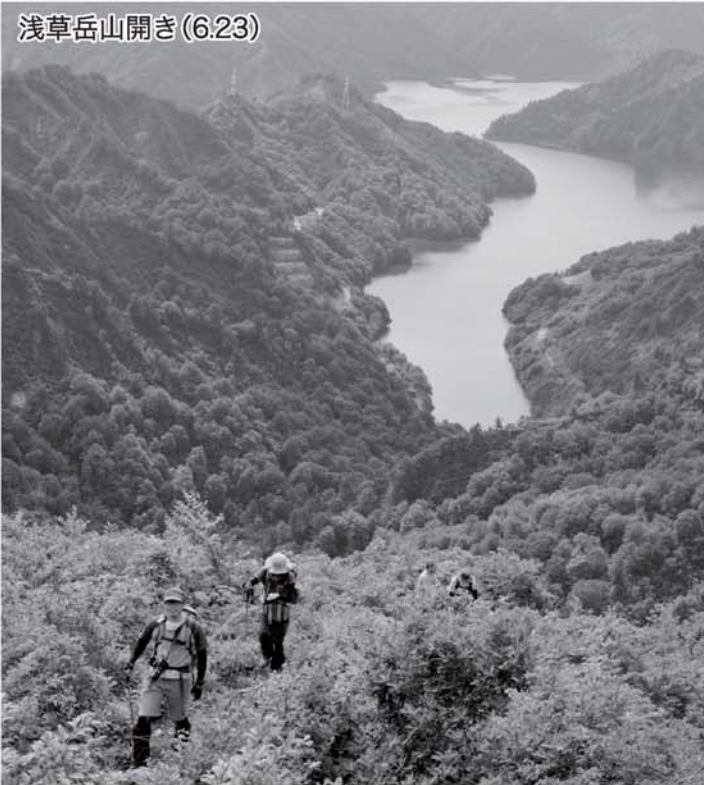


電源開発株式会社 非常食を寄贈

6月12日に電源開発株式会社より水や食料などの非常食を寄贈して頂きました。

この非常食は消費期限もあることから、6月30日に実施しました防災訓練の際に炊き出しとして住民の皆さんに配布させて頂きました。ありがとうございます。

浅草岳山開き(6.23)



登山シーズン本格化 各山で山開き

只見町の各山では山開きが行われ県内外から多くの登山者が只見町を訪れました。浅草岳は豪雨災害で登山道の崩落や土砂崩れにより一般登山者の入山が規制されていましたが、復旧作業が終わり2年ぶりの山開きとなりました。この山開きを待っていた登山者約400名は新緑の景色を楽しみつつ山頂を目指しました。

なお、会津朝日岳は豪雨災害の被害が大きく今年も登山禁止となっていますのでご注意ください。

蒲生岳山開き(6.2)



要害山岳山開き(5.12)



新緑を駆け抜ける 風つこ只見新緑号が運行しました

6月8日、9日の2日間、小出駅～只見駅間をトロッコ列車が運行しました。

久しぶりの運行となったトロッコ列車ですが、「ガタンゴトン」とゆつくりと走る列車に揺られながら気持ちの良い風を受け渓谷の綺麗な景色を眺めることが出来るので乗車された方は気持ちのいいひと時を過ごしたようでした。

今後運行される場合は、事前にお知らせをしますので、ぜひ乗車してみてください。



④トロッコ列車から見える風景

⑥只見駅に停車したトロッコ列車

只見スポ少が優勝 櫻木旗争奪少年剣道大会

6月9日開催の「第30回櫻木旗争奪少年剣道大会」で小学生16チームが出場した団体の部で「只見スポーツ少年団A」が優勝しました。

また、小学生個人の1部で新国太陽君が準優勝、小学生個人の2部で齋藤結君が準優勝となりました。

○只見スポーツ少年団A（団体）

先鋒：吉津 隼馬
次鋒：鈴木 伶菜
中堅：坂内 夏海
副将：目黒 拓海
大将：齋藤 結



▲優勝した只見スポ少の皆さん

明和スポ少が優勝 ファミリーマートカップ

6月1日、2日の2日間にわたり只見町の町民体育館などで開催された「ファミリーマートカップ 第33回全日本バレーボール大会小学生大会県会津地区大会」で女子24チームが出場した中、予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち進み明和スポーツ少年団が優勝しました。

6月29日に開催された県大会では惜しくも敗れてしまいましたが、明和スポーツ少年団は会津地区優勝という素晴らしい成績を残しました。



▲優勝した明和スポ少の皆さん



▲朝日小児童による花壇の草むしり



▲朝日婦人会の皆さんによるワックスかけ

朝日小学校・朝日婦人会 朝日地区センターで清掃ボランティア

6月6日に朝日小学校の児童約40名が朝日地区センターを訪れ、館内の清掃や花壇の草むしりなどの美化活動を行なっていました。

また、16日には朝日婦人会22名の方にも館内の清掃、床のワックスかけなどの作業を行なって頂きました。

多くの方が利用される地区センター。館内も広いので通常の清掃だけではなかなか綺麗にすることは難しいです。今回の清掃ボランティアでは普段手が回らない所の掃除や作業を行なって頂きました。作業して頂いたみなさん本当にありがとうございました。

只見の「あがりこ」を知る！

—「あがりこ」の講演会と観察会—



只見町ブナセンター

7月22日(月)まで開催されている企画展「あがりこの生態と人々の関わり」に併せ、ブナセンター講座(6月8日)と自然観察会(6月9日)が行われました。

ブナセンター講座「歴史遺産としてのあがりこ」



▲鈴木和次郎氏による講座のようす

今回の講座は、ブナセンター館長の鈴木和次郎氏を講師として「あがりこ」について講演を行いました。「あがりこ」とは、幹や枝を切った後にわきからたくさんの枝が伸び成長した特異な樹形を言います。

薪や炭の材料や家畜の食害から樹木を守るなど様々な目的で樹木の伐採、利用を行った結果、あがりこ型の樹形が形成されたそうです。只見には、蒲生地区の旧真名川集落周辺に“ブナのあがりこ”、旧黒沢鉱山付近には、“コナラのあがりこ”、旧黒沢鉱山付近には、“コナラのあがりこ”が見られます。「あがりこ」は、人による森林利用の歴史を残す“歴史的遺産”であるということ、わかりやすく説明していただきました。聴講された方々から、最後に様々な質問が出るなど、「あがりこ」に対する関心がより深まった講座となりました。

梁取『学びの森』と大曾根湿原での自然観察会

当日は天候にも恵まれ、エゾハルゼミが鳴くなど初夏らしい陽気の中で観察会が開催されました。「学びの森」は、福島県南会津農林事務所が整備し、かつては明和小学校などが野外学習の場としても利用していたブナの二次林です。林内には、ミズナラを中心に「あがりこ」も見られます。現地では、ブナセンター館長の鈴木和次郎氏からブナ二次林の成り立ちと「あがりこ」樹形の形成過程の説明を受け、実際の「あがりこ型樹形」を観察、森林や樹木に残る人々の利用の跡を身近に見ることができました。

その後、町の天然記念物に指定されている「大曾根湿原」に移動して湿原とそこに生育する植物の観察を行いました。この湿原は、戦時中に食糧増産のため農地化が計画され水抜きを行った結果、乾燥化が進み、さらに戦後にはコケや植物の盗掘も行われたとのこと。貴重な自然を守っていく必要性を感じる観察会となりました。



▲大曾根湿原



▲学びの森

Anna先生のLife in JAPAN Vol.30



■Anna・George
 Anna George
 ・1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
 ・2010年8月から只見町英語指導助手。
 ・小学校と中学校で語学の指導を行います。

現在、私は日本を離れるための準備を進めています。その作業は私に悲しみを与えます。日本を離れる前にできるだけの多くの日本食を食べようと心がけています。日本食は国外でも食べることができず、そこでは大変高価なのです。さらに焼き肉屋さんやしゃぶしゃぶ屋さんにはあまり見かけることができませぬ。私は会津のソースカツ丼の“ソース”を持ち帰ろうと思っています。地域の特別な料理は購入することも作ることも大変難しいのです。

小学校では、私の授業は最終回を向かえつつあります。今週は明和小学校で最後の授業を行



つてきました。さよならを言うのがとてもつらかったです。児童・生徒のみなさんが私と学んだ3年間の英語学習を楽しんでくれたことを期待しています。

私はみなさんを決して忘れません。みなさんが次に来るALTの先生とも楽しく、一生懸命勉強してくれることを期待しています。

私にはまだまだ日本で見たもの、やりたいことがあります。そういつたことも含めて、いつの日かまた日本に戻ってきたいと思えます。今も会津や福島各地を訪れるようにしています。まだまだ行ってみたい温泉や、見てみたい景色がたくさんあります。この地を去る前にできるだけ多くの福島の土地を訪れようと思えます。

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 中曾根 悦子



これからの季節は熱中症に注意!

熱中症は、暑熱環境下において、屋内・屋外を問わず高温や多湿等が原因となつて起こります。室内でも発症するケースが多く、年々増加傾向にあります。

熱中症にかかりやすい素因としては、お子様、高齢者、肥満、睡眠不足、疲れ気味の方などです。

症状は、めまい、頭痛、吐き気、筋肉のつっぱり、けいれん、高体温などです。

私たちの体は、汗をかくことで、体温を下げる調節をしています。脱水で汗をかくことができなくなると、体温が上昇してきます。また、体の塩分が汗で逃げてしま

うので、筋肉のけいれんなどを起こします。そうなる前に、おかしいと感した時は、すぐに涼しいところで休み、冷たいものを飲み、体を冷

やしましょう。かかった場合の応急処置は、冷却と経口摂取による水分補給が基本となります。経口摂取が難しい場合は点滴を行う必要があります。

具体的な処置例は次のとおりです。

- ・経口補水液またはスポーツドリンクなどを飲む。
- ・スポーツドリンクではナトリウム濃度が低いため、病的脱水時にこれを与えると低ナトリウム血症から水中毒を誘発する可能性があります。特にお子様は注意が必要で、経口補水塩の投与が望ましいです。手近な物としては味噌汁などが極めて有効です。(熱中症対策として)

適切な塩分摂取はやむをえません。夏場の重労働などでは早め早めの飲

用がトラブルを防ぐ重要なポイントです。

- ・霧吹きで全身に水を浴びせて、気化熱によって冷やす。
- ・涼しい場所で休ませる。

汗をかいていないとしても、また、体温が高くなるとも熱中症の可能性はあります。脱水だと、汗をかくことができませぬ。

これから、いよいよ暑さが本格的になります。日中炎天下での仕事は控えるなど、気を付けましょう。

朝日診療所からのお願い

* 状況により、入院患者さんへの付添(食事の介助等)をお願いします。ご協力をお願いします。

只見の伝統食と文化 ④

「海腹川背」のおひら

只見町を代表する郷土料理に「おひら」という美味しい料理があります。おそらく町内のどの家庭でもその家ならではの味が伝承されています。干したアカハラでだしをとり、そのだし汁で山芋・昆布・揚げ豆腐・マイタケ・ゴボウをじっくり煮込み、最後にアカハラをもどし味をふくませて作ります。ここまでは、おおよそどの家庭でも同じなのですが、アカハラを盛り付け方に2通りあります。

その一つは、海の魚も川の魚も区別しないで、頭は左側に、腹は手前、そして尾は右側に盛り付ける方法です。この盛り付け方は、海魚のサンマであれアジであれ、また川魚のヤマメであれアユであれ一般的な盛り付け方法で、現在の料理教室ではこの盛り付け方が基本になっています。

さて、もう一つの盛り付け方に「海腹川背」と言う方法があります。魚を盛りつける時には、海の魚はいただく側からみて腹の部分が手前にくるように、川の魚は背中が手前にくるように盛り付けることを「海腹川背」といいます。この盛り付け方については、小笠原流許し取りである塩沢の矢沢太一郎さんから教えていただきました。また、町内に現存

する小笠原流礼法の巻物のなかにも「魚は川背海腹 海の前川の後」と記されています。さらに、江戸時代、徳川幕府のおかかえで包丁儀式を取り仕切っていた料理番の四條流『料理切り方伝授・料法躰抄』の中には、

魚を人前に出すには海魚は、腹を人の方へなし、川魚は、せなを人の方へむけて出す物也。同じく頭の向きは、人の左の方へむけへし。(以下略)

と記されています。これから江戸時代には、川魚は背を手前にして盛り付けられていたことがわかります。その理由については、川魚が泳いでいる様子を表しているからだと言われています。そういえば、溪流釣りに行くとき、お腹を見せて泳ぐことはせず、黒っぽく背中をみせてすいすい泳いでいます。



小笠原流礼法による盛り付け方

おひらでのアカハラは盛り付け方は、小笠原流の流儀にもとづいて江戸時代からずっと伝承されてきたことがわかります。ちなみに、おひらに使われている「豆腐揚げ」という名称は、江戸時代より古い天正十四年(一五八六年)頃の言い方で、「油揚げ」はそれより二〇〇年以上後の文政五年(一八二二年)頃から使われるようになった名称です。このことから、おひらは伝統ある郷土料理であることがわかります。

魚の盛り付け方は、明治以降はどの料理書を見ても海川関係なく盛り付けられています。そのような中で、小笠原流の盛り付け方法を胸を張って伝授しているのも只見町だからこそできる「許し取り」の心ではないでしょうか。



一般的な盛り付け方



町民文芸

只見短歌会

五月詠草

大塚栄一

指導

夫見舞ふと訪ひくるる友多く老い座布団よりも椅子を喜ぶ

古川 英子

藤の花咲けば思ひ出づ亡き友の豆時く時季と詠みたる歌を

渡部ゆき子

取り置きし去年の瓜の小さき種心許なき思ひにて時く

小倉キミ子

御子息を偲び年ごといただきし母の日の花十三回忌

関谷登美子

ちぐはぐに長靴履きて得意気な曾孫は戸口にわが行くを待つ

目黒 富子

時ならぬ五月の山に降りし雪撫の若葉を白く覆へり

五十嵐夏美

懐かしき思ひに駄菓子を求めるも時の流れか味は薄れし

渡部ヨリ子

(出 詠 順)

只見俳句会

六月例会

目黒十一

指導

餌ねだる小鳥を籠に青葉風
被われた布突き抜けて葦の角

又壺歩

恒 夫

くぐりきし遠きいくさや山法師
いただきの白き連山朴の花

吉 児

隔年の枝葉をかくす山法師

喝采止まずカーテンコール風薫

邦 夫

武具飾る奥まで見せて何でも屋
ほととぎすまだ明けきらぬダムの村

笑 羊

瑠璃鳴くや退屈な日の体温計
寝ころべる猫に戸惑う聖五月

康 女

雪嶺や歓声あがる列車内
たっぷりと部屋に届きし春入日

リウコ

初物を食べカ湧く若葉山
故葱の味噌和えはずむ夕餉かな

都

草餅をとなりにくばる雨上がり
夏つばめ母となる日を見守って

ダム晴れて雪食山系みな緑
またたびの白き夏葉や峠晴れ

十 一

ふり上げる鉄先光るぶな若葉
風の無き暖かき日や胡瓜植う

一 穂

洋 子

浴衣なぞ久方ぶりと正座せり
水芭蕉飛び立つごとく日を浴びて

礼

「馬場邦夫氏の白寿を祝いて」

青田風入れて白寿を祝いけり

祀らるる大岩三つ滴れり

信

鉄休め見上げる空や雲雀鳴く

新緑やブナの老木倒れいて

邦 男

声上がるグランドゴルフ藤の花

目借時しばらくぶりの我が家かな

藤 彦

山中のつつじ公園人^{ひと}気なし

緑さす観音岩や風流れ

今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	
総務班	☎82-5050
企画班	☎82-5210
町民生活課	☎82-5220
税務班	☎82-5110
町民班	☎82-5100
保健福祉課	
保健班	☎84-7005
福祉班	☎84-7010
産業振興課	
農林班	☎82-5230
交流推進班	☎82-5240
環境整備課	
地域整備班	☎82-5270
生活環境班	☎82-5280
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所 (歯科)	☎84-2221
訪問看護ステーション	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2130
保健福祉センター	☎84-2101
只見地区センター	☎84-7005
朝日地区センター	☎82-2141
明和地区センター	☎84-2111
明和地区センター	☎86-2111

税 今月の納期

- 7月25日までに納めましょう
- 固定資産税(2期)
 - 国民健康保険税(1期)
 - 農集排使用料(7月分)
 - 介護保険料(1期)

RECRUITMENT

募集

只見町職員

(高校卒程度・一般事務・土木・建築)・(資格免許職・看護師)採用候補者試験を行います。

一、受験資格(学歴不問)

【一般事務職・土木・建築】
昭和四十八年四月二日〜平成八年四月一日までに生まれた者。

②第二次試験(一次試験合格者)

小論文、面接による試験を行います。

五、発表

役場掲示板に合格者受験番号を掲示するほか、本人に通知します。

四、第一次試験の日時、場所

○日時
平成二十五年九月二十二日(日)
午前九時受付〜午後三時頃

六、採用

合格者は採用候補者名簿に記載され成績順に町長が採用者を決定する。
(この合格の有効期間は一年間です)

平成二十六年度只見町職員(高校卒程度・一般事務職・土木・建築)・(資格免許職・看護師)採用候補者試験を行います。

記

一、試験職種及び採用予定人員

一般事務職	若干名
土木	若干名
建築	若干名
看護師	若干名

一般事務職の教養試験は高校卒程度、看護師は短大卒程度で次により行います。

①第一次試験

教養試験及びそれぞれの専門試験(一般行政職を除く)、

●高卒程度

田島高等学校
(南会津町田島字田部原二六〇)

七、受験手続及び受付期間

①申込用紙の請求

申込用紙は役場総務企画課及び朝日、明和地区センターで交付します。

八、その他

○詳しくは、役場総務企画課
務班までお問い合わせ下さい。
(只見町役場総務企画課)

☎〇二四一・八二・五〇五〇

(内線二二四)

会津地域若者サポートステーション

仕事に就くことへの不安がある、人と話すのが苦手であるなどの理由で社会への第一歩を踏み出せないでいる若者やそのことに関して心配しているご家族に気軽にご相談いただける就労支援施設です。

- ◆対象…15歳～39歳までの若者とそのご家族
- ◆場所…会津若松市一箕町大字亀賀藤原五十二 ヨークベニマル一箕町店 隣接テナント
- ◆利用時間…平日午前10時～午後7時

【お問い合わせ先】

☎0242-32-0011

Email info@job-sapo.com

町長の手帳

町長スケジュール〈6月分〉

- 1日 全日本バレーボール小学生大会・会津大会
- 2日 蒲生岳山開き、塩沢山菜まつり
- 3日 環境衛生組合最終処分場視察研修(～4日 長野県)
- 5日 議案検討庁議、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方環境衛生組合管理者会、社会福祉法人南会津会事務引継ぎ、只見高等学校振興対策会議役員会・総会
- 6日 只見川ライン観光協会総会、奥会津五町村活性化協議会総会、只見川電源流域振興協議会総会・懇談会
- 7日 新県立病院改革プラン検討委員会、福島県森林・林業・緑化協会監査
- 9日 只見湖岸健康マラソン大会
- 10日 只見町交通安全対策協議会、会津鉄道株主総会・取締役会、会津線等対策協議会総会
- 11日 只見中学校給食訪問、自民党チームイレブン(小泉進次郎氏など)災害視察随行、会津元気アップフォーラム
- 12日 朝日小給食訪問
- 13日 只見町議会6月会議(～19日)、J R只見駅開業50周年記念事業実行委員会
- 18日 交通事故死者ゼロ千日達成表彰伝達式
- 20日 林道施設災害復旧事業残事業調査
- 21日 只見町議会全員協議会、只見町議会6月第2回会議
- 23日 浅草岳山開き
- 24日 林道黒谷線災害状況視察
- 25日 南会津地方環境衛生組合臨時議会、南会津地方広域市町村圏組合臨時議会
- 26日 県市町村総合事務組合議会臨時会、県水源林造林推進協議会総会
- 27日 南会津地方町村議会議員大会、社会福祉法人南会津会評議員会・理事会
- 28日 町職員労働組合定期大会
- 30日 只見町防災訓練、前会津坂下町長(故 竹内 俊氏)告別式

防災訓練を終えて

豪雨災害から丸2年が経とうとしています。6月30日に町民の皆様をはじめ消防団・警察・婦人会員や赤十字奉仕団員の協力を得て、全町的な防災訓練を実施することが出来ました。

避難訓練には、家族で、そしてお年寄りを支え合いながら1,400名を越える町民が参加されました。大勢の方々に参加して頂いた事で、意味のある防災訓練になりました。ありがとうございました。対策本部設置から避難勧告に至る一連の訓練からは、課題を整理し改定中の地域防災計画に活かしていきます。2年前の豪雨災害からの教訓として過去の災害経験を受け継ぎ活かしていくことが大切であることを学びました。

この教訓を忘れることなく活かし、次の世代に繋いでいく取り組みを自助・共助・公助の観点から進めてまいります。

引き続き只見川のより安全な河川改良計画を求めてまいります。

これから一段と暑くなりますので熱中症等には十分注意してお過ごし下さい。

只見町長 目黒 吉久

町民の消息

(6月1日～6月30日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

大竹 涼太 (男/淳史・絵美子) 只見
湯田 陽生 (男/喬・めぐみ) 只見

■ご結婚おめでとうございます

大倉 山内 隆行♡南会津町 穴澤あけみ

■おくやみ申し上げます

渡部 久江	67歳	小川 川林
角田 久江	85歳	小林 島見
星 虎一	95歳	荒只 見見
大竹 一雄	68歳	只只 見沢
新國 茂之	95歳	只只 塩井
五十嵐 忠正	77歳	大福 大倉
齋藤 フユコ	92歳	飯塚 トシエ
佐藤 逸也	86歳	柏木 ナヲエ
目黒 ヒロセ	95歳	馬場 隆介
栗城 長一郎	85歳	五十嵐 信喜
五堀 金五	84歳	堀酒 井新
酒井 新一	86歳	

人のうごき

平成25年6月1日現在

人口	4,694	(-1)
男	2,264	(-1)
女	2,430	(±0)
世帯数	1,828	(+4)
高齢化率	42.4%	

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 8 転出 5 出生 2 死亡 6

あとがき

▽私ごとながら六月に結婚式を行いました。最初に結婚式場に行ったのは昨年の八月。その時点で空いているのはもう今年の六月しかありませんでした。「こんなに混むのか」と思いつつ十カ月に及ぶ準備の末なんとか式を挙げる事が出来ました。結婚式を挙げる事で本当に色々な人のお世話になってるんだという事を実感しました。正直準備は大変でしたが式を挙げて良かったと心から思っています。

(吉津)

地区センター職員
湯田 誉史

朝日地区センター
図書室 ☎84-2059

おすすめ新着図書

★常識として知っておきたい日本語

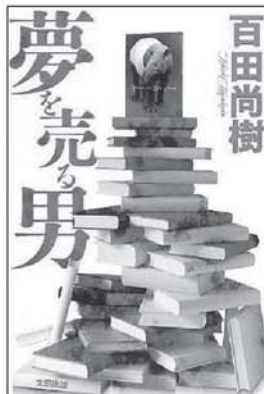


東京大学名誉教授
柴田 武/著 (幻冬舎)
日本人だから、自分たちの言葉である日本語について知っているのは当たり前です。ところが、外国人に質問され、得意になって説明しようと思っても、いざその時になると、意外に私たちは自分たちの言葉について、あやふやな知識しかもっ

ていないことに気づきます。

この作品は、面白い語源をおよそ350項目とり上げて、解説したものです。ところで、「刺身」という言葉は、切るのになぜ“刺す”なのか？ 気になる方は、手にとってご覧ください。

★夢を売る男



百田 尚樹/著
(太田出版)

著者の百田尚樹さんは、放送作家として多数の番組構成を手がけており、2006年、『永遠の0(ゼロ)』で作家デビューしました。一作ごとにまったく異なるジャンルの作品を発表する異色の作家として知られています。

この作品は、主人公が働く出版社を舞台に、本の出版を夢見る現代人のふくれあがった自意識といびつな欲望を鋭く切り取った問題作です。

★図書室の本はみんなの本です。返却が遅れている本がないか、書棚の確認をお願いします。新しい図書や有用な書籍を購入しておりますので、ぜひご利用ください。

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



ヒメシジミ

(学名: *Plebejus argus*)

[チョウ目シジミチョウ科ヒメシジミ亜科]

ヒメシジミは町内でよく見られるシジミチョウで、翅裏は灰色地、後翅外周に沿ってオレンジ色の帯が入ります。ミヤマシジミ似ており、長らく混同されていました。翅裏のオレンジ帯の中にある黒斑に、水色の構造色があるのがミヤマシジミ、無いのがヒメシジミといった区別をします。年一化性で、卵で冬を越え、成虫は6～8月にかけて見られます。卵は食草(アザミ類・ヨモギ・ヤマボクチ、オオイタドリ)の根元近くの枯れ葉などに1つずつ産みつけられます。



山地性が強いことに加え環境が悪いとこの蝶を見ることができません。只見町では、ヨモギの生える草原で見る事ができます。

現在は開発によって多くの地域で絶滅しており、本州に存在する亜種 (*P. a. micrargus*) は環境省の準絶滅危惧種に指定されています。

企画展示

ブナセンター講座

○水辺林の生態とその役割

講師: 崎尾均氏 (新潟大学教授)

日時: 8月3日(土) 13:30～15:00

場所: ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

受講には入館料(大人300円)が必要です。

自然観察会

○崎尾先生と歩くブナの天然林

講師: 崎尾均氏 ※予約が必要となります

日時: 8月4日(日) 10:00～14:00

場所: 木の根沢

参加費など詳細はお知らせ版に掲載します。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています



▲上福井に生えたピロードモウズイカ

この植物は 何でしょうか?

上福井の堀金太一さんから珍しい植物があるという情報を頂いたのでブナセンターで調べてもらったところ「ピロードモウズイカ」という植物である事が分かりました。

この植物はヨーロッパに原産する二年生植物で、成長すると高さ2メートル以上にもなるそうです。ヨーロッパでは古代から薬用として広く利用されており大部分の農作物に対しては大した害にならないという事でした。

町内で珍しいものを見つけた場合はお気軽にご連絡下さい。